

桑野造船株式会社

〒520-0243 大津市堅田 1-21-2 TEL:077-573-8001 FAX:077-573-8002

URL: <http://www.k-boat.co.jp> E-mail: [kuwano@k-boat.co.jp](mailto:kuwano@k-boat.co.jp)

ボートシーズン真っ盛りとなりました。日頃はいろいろお世話になりありがとうございます。桑野造船では郵便やホームページで造船情報をお送りしてきました。今回、これらに加えて FAX にて定期的にタイムリーな情報をお届けすることにいたしました。ぜひご覧下さい。  
本年も皆様のご支援を頂き、良いボートがお届けできるように頑張りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

## 桑野造船 会社目標

この1年、下の目標を掲げ頑張ってもらいます！

**確かな技術と情熱でヨーロッパ艇に挑戦！！**

お客様にとって、なくてはならない桑野になるために

- \* すぐやる 必ずやる できるまでやる
- \* 顧客側にたった徹底したサービス
- \* 感性を豊かに (夢・感動・新感覚)

## 規格艇が変わりました

日本ボート協会が制定する「規格艇」の基準が、H14.6月に新規格へと変更されました。規格艇は、安全で堅牢かつ安価の艇を普及させて

我が国のボート競技を発展させるとともに、国体やインターハイでは同じ規格の艇を使うことで公平な条件で競技を行おうとするために制定されています。しかし、旧規格では最近の造船技術の進歩から遅れ気味となってきたことや、選手の大幅な大意向上などによる問題の発生で見直しが行われることとなりました。

### <新規格艇規定の主な変更点>

1. 艇の型をシングルスカル及びダブルスカルについては国際基準の FISA 型に変更した。
2. 艇内艙装寸法を大型選手にも対応できるように改め、他の値も最近一般的に採用されている範囲を確保可能とした。
3. 艇剛性(縦剛性・ねじれ・リガー剛性)の測定法を定められた結果、海外トップレベルの性能となった。艇体重量は L 板式リガーを国際標準式に取り替えることで FISA 重量規定下限値に近くできるようになった。
4. 海外艇、旧規格艇に比べて短納期で安価、そして性能向上を実現した。

日本ボート協会はメーカーに対して、規格艇が規定通りに製造されているかの認証検査を行います。桑野造船では、H15.4月ですべての艇種の認証を得ました。現在、規格艇の前艇種(7艇種)の認証を得ているのは弊社のみとなっています。

### 桑野ボート モデル一覧 <モデル E が規格艇となります>

モデル	艇体構造仕様	艇重量(kg)	特徴
A1	炭素繊維・アラミド繊維 / ハニカム構造	13.8±0.2	高級レース艇(エンパ、イタリア S 同等)
A2	炭素繊維・ガラス繊維 / ハニカム構造	14.0±0.2	高級レース艇
B	炭素繊維 / マット構造	17.0±0.5	普及艇、耐水性
E	炭素繊維・アラミド繊維 / 発泡体構造	15.5±0.5	レース艇(イタリア 2 同等)、耐水性、 <b>日規規格艇</b>
D	ガラス繊維(一部炭素繊維) / 中国製ハニカム構造	16.0±0.5	高剛性、普及～レース艇
C	ガラス繊維 FRP 単板 + キール取付 単板構造	18.5±0.5	トレーニング艇(高級艇と同型成型)

## ボートの安全について - 用具製造の立場からの提案 -

ボートをはじめ競技用具を提供するメーカーとしての立場から安全についての提案です。桑野では、用具の絶対安全化(最悪の事態が発生しても安全)を目標に日々開発に取り組んでいます。

～FRP は沈む?～ FRP 成型品はほぼ比重が1です。通常の艇構造では発泡体やハニカムをはさみ込んで艇体を製作しますので沈むことはありませんが、リガー等の金属パーツも加わるために十分な浮力があるとはいえない難しいといえます。

1. **浮体の内蔵**: 艇には前後に空気室を設けて沈まないようにしています。しかし、衝突事故等で空気室に浸水してしまった場合はこの限りではありません。最悪の事態が起こっても一定の浮力が得られるように自主的に発泡体を前後のキャンパス内に挿入しています。
2. **空気室式救命ジャケット**: 動きやすいボート専用救命具を開発しました。浮体が空気なので押さえれば柔らかくへこみますから落水時の再乗艇で大変動きやすいことが特徴です。さらにポンベなどの消耗品がなく、救命具の機能点検が目視検査で可能です。
3. **カタマランボート**: 水温の低い場合にはできる限り早く離水し、体温の低下を防ぐことが重要です。そのためには、モーターボートの併走がベストです。弊社では、コーチングと救助艇を兼ねたカタマランボートを安価で販売しています。練習の邪魔になる波がたちにくい構造です。環境にも配慮した4サイクルエンジンを搭載しています。
4. **防水バックと携帯**: 事故発生時に応援を求めするために、防水バックに入れた携帯電話を艇に積むことも有効と思われます。

BOAT TIMES の配信停止をご希望される方は、お手数ですが FAX (077-573-8002)又は E-Mail ([kuwano@k-boat.co.jp](mailto:kuwano@k-boat.co.jp)) で当社までご連絡下さい。また、ご意見・ご感想などもお待ちしております。

お手数ですがボート部関係者へお渡しお願ひいたします。